小樽育成院だより 平成29年12月発行

えがお

48号
2017年

▶毎年10月にロース幼稚園児さんが、養護老人ホーム小樽育成院でお遊戯や歌を披露するため来訪しています。園児さんとの手遊びに満面の笑顔で応えている利用者様。

社会福祉法人 小樽育成院 運営理念

基本的人権の確保と擁護

～人間を大切にするサービスの提供～

利用者様の自立した生活を支援するためのサービスを提供します。

利用者様の生活と生き方を尊重したサービスを提供します。

利用者様中心のサービスを提供します。

発行／ 社会福祉法人 小樽育成院
〒048-2671 小樽市オタモイ1丁目20番18号
TEL: (0134) 28−2500 (代) FAX: (0134) 26−2476
URL: http://www.otaru-ikuseiin.com 育成院 検索

社会福祉法人 小樽育成院

広報活動の取組み

平成29年度から国の法律改正により社会福祉法人改革に基づく事業運営がスタートしました。改革の柱として『経営組織のガバナンス（統治）の強化』『事業運営の透明性の向上』『財務規律の強化』『地域における公益的な取組みを実施する責務』が社会福祉法人に求められています。

当法人では、柱の一つである『事業運営の透明性の向上』については、ホームページに財務状況や事業運営状況を掲載するとともに、施設等の案内紹介や主な行事等について最新の情報を発信しています。

また、利用者様やご家族様に、これまで4月と8月の年2回、広報誌「えがお」をお届けしていますが、今年度からは12月にも発行し、年3回に増刊することになりました。

当法人の予算及び決算事項をはじめ、各施設が取組んでいる行事やお手伝いくださるボランティアさん方の様子など、様々な視点からその内容を発信していきたいと思っています。

限られた紙面でありますが、ご意見等がありましたらお知らせ頂ければ幸いです。

養護老人ホーム 小樽育成院

小樽市オタモイ1丁目20番20号
TEL(0134)26-0162

施設での利用者様の生活は、買い物や通院、ご家族や友人の方々との外出、近隣への散歩、部屋でゆっくりくつろいだり、おしゃべりしたりなど、皆さん自由に思い思いの生活を楽しんでいます。

また、年齢を重ね介護が必要となった方へは、施設職員が生活全般において個々の状態に応じ、その人らしく生活できるよう様々な面で支援をしています。

特定施設の併設により介護が必要になった時も、居場所を変えずに安心して暮らしていただけるよう難しい行政等への手続きや各種相談、個々の健康状態を考慮した食事提供、心身の健康管理など、多職種との連携により一人ひとりに必要な生活支援を行っています。入居を希望される方は、いつでも見学・相談を受け付けています。お気軽にご連絡ください。

食堂で昼食のおかずバイキング、どれにしようかな?

医務室で嘱託医による診察

特別養護老人ホーム やすらぎ荘

小樽市オタモイ1丁目20番18号
TEL(0134)28-2500

特別養護老人ホームでは、感染症を予防し、まん延を防止するために、「委員会の設置」「指針の整備」「研修の実施」等の対策を講じる必要があります。

当施設では毎年研修計画を作成し、感染症の研修を実施しています。その研修が10月下旬に開催され、小樽市保健所の保健師を講師として招き、感染症についての講義、吐物処理の方法を実技を交えて再確認するとともに、ウイルスを「持ち込まない、持ち出さない、拡げない」を合言葉に「職員が普段から意識を持つ」ことが大切であることを学びました。

このような研修や実習を重ねていくことが感染症予防に向けての大切なことであると日々実感しています。利用者様が安心・安全に健康で楽しく生活できる環境づくりに最善を尽くしているところであります。

保健師による研修会の様子、職員は真剣

感染症対策の技術実習も本番さながらに

オタモイ デイサービスセンター

小樽市オタモイ1丁目20番19号
TEL(0134)26-1116

オタモイデイサービスセンターでは、利用者様に、季節感と非日常性を実感して頂こうと、年間行事として、「季節のドライブ」や「屋外昼食会」などを行っています。

今年度は、5月中旬に春のドライブで「新南樽市場」などへ買い物に行っています。また、「屋外昼食会」として、7月にセンター前のポーチで美味しくジンギスカンを食べました。

年末年始に向けては「餅つき会」や「クリスマス会」などを実施し、利用者様に、楽しんで参加して頂けるよう、職員一同、企画していきます。

また、毎月実施する活動として月間行事を行っています。活動内容としては、「音楽セラピー」や「絵画サークル」などを実施しています。

今後も利用者様に満足して頂けるよう関わらせて頂きたいと考えています。

ドライブで新南樽市場に買い物

太鼓をたたいて、気分は最高

オタモイ ケアプランセンター

小樽市オタモイ1丁目20番18号（やすらぎ荘内）
フリーダイヤル 0120-514-294

当センターでは、要介護認定を受けた利用者様が住み慣れた地域でその人らしく生活できるように各介護事業所や行政、民間の支援者様とのネットワークを大切にして支援業務にあたっています。また、利用者様を支えるご家族の相談相手となり、少しでもご家族がご自分の生活や健康を大切にしていただけるよう手助けになりたいと願っています。

利用者様とご家族の思いを理解し、必要な情報を提供するとともに、利用者様ご自身が最適な支援を選択できるように心がけています。

職員1名の退職に伴い12月より北西部地域包括支援センターから異動がありました。これを機会に居宅支援の在り方や支援方法についても見直し、これからも新メンバーとともに地域の皆様のお役に立てるように努めていきます。

新人を入れてスタート、宜しくお願いします

特養やすらぎ荘内に当事務所があります

小樽市北西部 地域包括支援センター

小樽市オタモイ1丁目20番18号（やすらぎ荘内）
TEL(0134)28-2522

地域包括支援センターは、小樽市からの委託を受け、市内の北西部にお住いの高齢者の方々の相談事業等を行っています。

認知症初期集中支援チームをご存知ですか？平成28年10月から、医療・保健・福祉の資格を有した専門の職員がチームとなって、ご本人やご家族への支援を行っています。

また、認知症が疑われる方、認知症の方について、ご本人、ご家族、民生委員などから相談を受けたときに家庭訪問を行い、その結果を踏まえた支援の方向性をそれぞれの専門分野から検討し、ご本人、ご家族の自立した生活のサポートを行います。「こんな相談していいのかな?」など、ご心配なさらず、安心して市内地域にあります地域包括支援センターまでお問い合わせください。

児童民生委員等で構成する地域ケア会議

福祉センターで行われた介護予防教室

社会福祉法人の社会貢献とネットワーク
～法人の使命と求められるもの～

「社会福祉法人懇話会しあわせネットワーク･おたる」の船出

小樽市内の社会福祉法人など17団体は、平成29年10月12日、「社会福祉法人懇話会しあわせネットワーク・おたる」（代表=福森和千代・社会福祉法人小樽育成院理事長）を発足させ小樽市内のホテルで発会式を行いました。

新組織は社会福祉法人による地域社会への貢献が求められる中、小樽市社会福祉協議会、北海道宏栄社、後志報恩会、小樽育成院の４団体が呼びかけ、「地域における公益的な取組を進める」ことや「地域を基盤とした共生社会の形成に寄与する」こと、「社会福祉人材（ボランティア含）の確保・育成を図る」ことなどを目的として事業活動を展開することになりました。

福森代表の発会式挨拶

事業活動の取組

事業活動としては、生活困窮者への緊急生活支援として各社会福祉法人が備蓄している非常用食品（非常食乾麺・缶詰）などの提供や必要物品要請への協力を行うこと、交流会を開いて地域ニーズの共有と課題解決に向けた意見交換を行うこと、加えて社会福祉の仕事の楽しさ・喜びなどを市民に周知しながら福祉の人材確保・育成を行うために、説明会・相談会を開催することなどを想定しています。

市内各法人の代表や役員が出席

オレンジかふぇの始動

社会福祉法人小樽育成院では、地域に対して発信している取組みの一つにオレンジかふぇがあります。これは認知症の方やそのご家族、支援する人達が集いお茶を飲みながら情報交換等を行い、経験者の話を聞いたり悩みを打ち明けたりできる場です。平成29年7月より毎月第２火曜日、特別養護老人ホームやすらぎ荘のわいわい広場喫茶コーナーで開催しています。

その他、小樽市内ではオレンジかふぇが6箇所あり、その内3箇所が社会福祉法人で運営されています。開催頻度は毎月又は隔月に1回、時間は２時間～４時間程度となっています。

是非、ご利用頂きたいと思います。お待ちしています。

喫茶店前に看板を用意して、さあースタート

喫茶内部は大忙し

この時には、何組かの相談もありました

火災訓練と地域との連携
～「秋の火災予防運動」から～

去る10月13日、小樽市消防署による「秋の火災予防運動」の一環として養護老人ホーム小樽育成院において、小樽市の救助工作車や大型水槽車等の消防車両7台と隊員26名、消防団第18分団4名のほか、養護施設職員20名、オタモイ町会住民10名の参加のもと、放水訓練や梯子車による屋上からの救出訓練などの大規模な火災予防防御訓練が行われ、無事、訓練は終了しました。

～地域との連携～

この時期、当法人施設では消防計画に基づき養護小樽育成院、特養やすらぎ荘、オタモイデイサービスセンターの施設職員等からなる自衛消防隊による火災通報訓練・初期消火訓練・避難誘導訓練を合わせて実施しています。特に、高齢者が生活する施設の夜間の火災や災害では、配置職員が少なく、重介護の利用者様の避難誘導では、人手が不可欠であることから近隣のオタモイ町会の住民や近隣に住む職員による支援は必要であり、町会の方にはこうした機会を利用して避難誘導路の確認等も行って頂いています。この日も山田雅敏町会長はじめ町会の方々が10名程参加していただく中、利用者様の避難誘導訓練の支援をして頂き、大変心強く感謝しているところであります。また、非番の職員間の連絡体制も4年前から火災現場施設からの緊急メールを一斉発信することで全職員に支援要請するシステムを構築しているところでもあります。

育成院での町会の方々による避難誘導支援

やすらぎ荘での町会の方々による避難誘導支援

～これからの施設の取組み～

小樽市は比較的災害の少ない地域と言われています。オタモイ地区にある当施設も位置的には小樽市が示しているハザードマップ(被害予想地図)の土砂災害や津波の危険区域に該当していませんが、近年、全国的に異常気象より大雨による土砂災害や河川の氾濫で大きな被害を受けている高齢者施設も多く報道されています。このことを肝に銘じ、平時からの火災訓練は勿論のこと、土砂災害・地震などを想定した防災計画や訓練を継続的に行うことが、ここで生活をしている利用者様の安心・安全な施設づくりに繋がるものと確信しています。『災害は忘れた頃にやってくる』という諺もあり、普段からの災害への対策等を講じていかなければならないものと考え、これからも訓練の充実に努めていきます。

▶4台のポンプ車から一斉放水

▶3階に取り残された方を梯子車で救出

各施設のボランティア活動の紹介
～利用者様とともに楽しく活動～

法人が運営する各施設では、利用者様に日々の生活を楽しんでもらうため、職員だけで行事を運営することは難しくなってきています。特に、利用者様の車椅子の誘導やお話相手などには多くの人手を必要とします。今回は各施設のボランティア活動を紹介します。

養護小樽育成院では、「喫茶えがお」・「遊ぼう会」など、毎月の行事がありますが、コープさっぽろ『虹の会』の皆様方により利用者様のお相手をしたり、喫茶のお手伝いを頂いています。

今年4月から新しく『ハーモニカ』の音色に合わせて利用者様が一緒に歌唱する、セラピー活動をしている方もいます。

また、趣味の『華道』『茶道』『詩吟』等ありますが、クラブの先生として指導して頂いています。『理容ボランティア』の方は、長年に渡り理容奉仕会の諸先輩から引継ぎ、毎月、利用者様に理容して頂いています。

また、年1回『マジックショー』をやって頂いている札幌在住の方もいます。ボランティアとして北海道シニアリーダーや介護サポーターとしての役割も担っており、年50回ほど札幌を中心に福祉施設の慰問活動を行っているそうです。

昨年10月に「ボランティア懇談会」の中から各ボランティア同士のコラボ活動の意見があり、早速、今年の新年会で企画し、利用者様から大変喜ばれていたことが印象に残っています。来年も新たな企画をしていきたいと思います。

特養やすらぎ荘では、地域住民をはじめ、ボランティアの方々の協力が欠かせません。施設では、『三期会』というボランティアさんが来訪され、私たち職員同様、利用者様を支えるチームの一員として活躍して頂いています。

毎月開催される「花サークル」では、利用者様と一緒に花を活けたり、「茶話会」の催しでは、お茶やコーヒーを飲みながら利用者様同士、ボランティアの方々との交流を楽しんでいます。その他にも「唐門祭り」や「盆踊り・花火大会」には利用者様の誘導を手伝ってもらい利用者様も気軽にお話ができると大変好評です。

このように、ボランティアの方々に支えられて施設運営が図られていることに感謝しつつ、より一層、利用者様が楽しみを持っていきいきと生活ができるよう支援していきます。

デイサービスセンターでは、音楽セラピーは、懐メロや童謡などを鈴や鳴子・太鼓などを用いて一緒に歌われています。利用者様から曲のリクエストもあり、大変人気のある活動となっています。

絵画サークルでは、先生が、小樽の風景や植物などをスケッチして来て下さり、そこに色鉛筆やクレヨンを使用し色を塗っていきます。

また、『虹の会』の皆様により、お雛様や五月人形の飾り付けや、季節のドライブの付添いなど、センター内外の活動に手伝って頂いています。

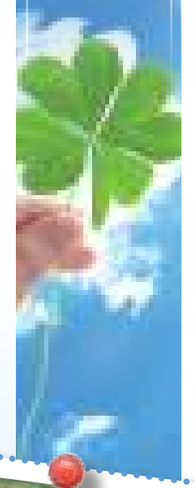
先生のハーモニカの音色に合わせ、歌唱する皆さん

あら不思議？色とりどりのハンカチ！

各ボランティアさんが一同に会して懇談会

私の生けたお花どうでしょうか。完璧！

私の絵の具の色具合はどうでしょうか



秋晴れの日に、朝里ダムの展望台でハイ・ポーズ！

「虹の会」ボランティアさんとお買い物

初代院長 興水伊代吉石碑の修復
～社会福祉法人小樽育成院の歴史を永遠（とわ）に～

前回「えがお」47号で特集『蘭越町上里地区の小樽育成院の開墾地を訪ねて』と題して、初代院長の興水伊代吉氏の石碑がこの地区に建立されていることを掲載しました。今回は、この石碑の礎石（台座の部分）を修復させて頂いたというお話です。

石碑の周辺の上里育成神社境内の様子

さて、初代院長興水伊代吉氏の石碑の建立は、院長が逝去された翌年の昭和17年で、石碑の裏面には「昭和17年9月8日財団法人小樽育成院建立」と刻まれています。建立後75年の歳月が経っていますが、建立当時は太平洋戦争中でありました。

今年の春に清掃奉仕に行った際、礎石箇所の隙間から蔦が伸びており、その根を引き抜くと隙間が大きく広がる様子を見て、このままでは崩壊の危険があるのではと参加した職員全員が不安を感じました。早速、上里地区の方々にこのことを話したところ、「この石碑は上里地区で管理していますが、地域住民の高齢化と過疎化により管理が難しくなっています。」との話をお聞きし、このことを法人に持ち帰り検討しました。石碑は孤児院経営時代に経済的自立を図るため農地を開墾した地に建立され、法人にとっては貴重で大切な遺産であり、育成院史に永遠に語り継ぐべきものであることを確信し、来年の創立120年周年の記念事業の一環として位置付け修復して寄進することになりました。

修復直後の石碑、周囲も整えられています

6月はじめの興水氏の石碑の修復前の様子

地元の石材業者の方から、「この石は当時戦時中で物資がない時代にもかかわらず、東北方面から採石されたもので、硯石にも使用される貴重な石材です。」とお聞きし、当時の興水氏の業績の偉大さが偲ばれる一幕でもありました。修復には1か月程かかりましたが、建立当時はコンクリートが不足していたため、礎石の中は土を詰めただけの簡素なもので強度的にも弱かったようです。このため、今回の修復では基礎部分から全てコンクリートで固めて積み上げ、地震にも耐える頑丈な造りとなりました。

石碑の台座裏面の刻字、当法人の修復寄進

石碑完成式の出席者参拝風景

上里育成神社の例大祭である9月8日には、上里地区の方々と当法人理事長ほか役員も同席させていただき、石碑修復事業の完成を祝い、式のあとの交流会においては地区代表の冨樫順悦様はじめ地域住民の方々と交流を深めることができ、このことを機に、これからも地域の方々とのご縁を大切にして行きたいという思いを新たにしました。

例大祭終了後、地元の方々との交流の様子

TOPICS
トピックス

社会福祉法人 小樽育成院

介護相談フェア

～社会貢献の一環として継続～

平成29年10月17日(火)から18日(水)の2日間、長崎屋の公共広場において、「第9回社会福祉法人小樽育成院介護相談フェア」を開催しました。

今年度で9回目となりますが、小樽市内でも長年、市民の方々の憩いの場となっている長崎屋1階の公共広場で行い、2日間で約60名の方の相談に応じ、150名以上の方が来場されパネル等を見て行かれました。

会場では、養護老人ホーム小樽育成院、特別養護老人ホームやすらぎ荘、オタモイデイサービスセンターの日々の活動の様子や、各施設の居室等の写真をパネルにして、展示しました。

パネル展の全体の様子

また、気軽にお話ができるように、長テーブルや椅子を配置した相談コーナーを設け、各事業所のパンフレットなどを配布しました。

介護相談に来られた方に対しては、各事業所から1名ずつの職員が参加し、合わせて5名の職員で対応させていただきました。相談の内容としては、入所の待機状況や、ご利用料金についてが一番多く、次いで介護保険の制度自体がよく分からなく、「どこに申請をして良いか?」などの相談もあり、それぞれの方々は納得しながら聞き入っていました。

職員から市民の方へ説明

また、パネルを見られた方より、「今は個室となり、こんなに良い部屋なんですね。」と昔との違いに驚かれている方もいました。

最後に、次年度は節目の10回目の開催となり、当法人の創立120年を迎えることからより工夫し、より多くの方の手助けとなれるような企画をしていきたいと考えています。

相談コーナーを設け、市民の相談に応じました

施設内の様子が一目で分かります

編集後記

今年も残すところ、あと一か月ですね。皆様にとって、どんな一年でしたでしょうか。この編集後記を機に思い出してみました。

今年もたくさんの方々に会い、お会いした数の分だけ私自身の経験になっていくんだと改めて感じる一年でもありました。

介護相談でお宅に訪問すると、たくさんの話を聞かせてもらいます。戦時中の話から野菜のおいしい食べ方まで。その方が歩んでいらした人生を聞かせてもらい、時には恋愛話で盛り上がります。お付き合いが長くなってくると、私たち職員の体調を心配してくださったり、運転に気を付けて元気でまた来てねと、こちらが支援させてもらっているはずなのに元気とやさしさをもらいます。教えていただくことばかりだと気づきます。

同じ道は一つとない大切な人生に関わらせてもらい、たくさんの教えをいただきながら、少しでも役に立てるように来年も精進したいと思った今日この頃です。

（A・Sのつぶやき）